



人事一新！若くなったWASEDA

平成8年の春は、新しい顔ぶれで始まりました。長くお世話になった矢頭先生がご定年を迎えられ、あらたに近江幸治法学部教授がヨット部長にご就任。監督に鈴木光宏氏（昭和63年OB）が武村洋一氏からバトンを引き継ぎました。理事長も小川寛樹氏（前事務局長・昭和54年OB）目下、新構想で事務局長編成中。コーチ陣は、矢口、清水（H2）、石井、高野瀬（H5）、島山（H6）の名氏。学連理事には、森田朋愛氏（S58）が就任。

学生たちは昨年新装なった合宿所で、タフな平成コーチ陣に鍛えられながら、シーズンに突入しております。OB各位の“海への結集”をお願い致します。6月初めの早慶戦にまず三戸浜へ。今年も、レスキュー更新・琵琶湖全日本インカレ・さらには箱龍問題など多くの高いハードルがありますが、皆様のご協力・団結により強く現役ヨット部を支援して行きたいと思ひます。別掲の募金計画に力強いご協力をお願い致します。

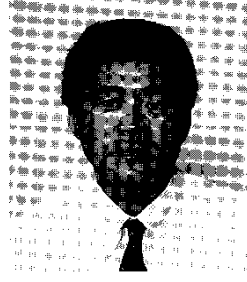


クラブ会員の皆様へ

早稲田ヨットクラブ理事長
小川 寛樹（昭和54年卒）

ちょうど2年前のOB総会に出席したのは、小生がサラリーマンとして4回目の転勤により、6年ぶりに東京に戻ってきた時のことで、小生にとり初めてのOB会出席でもありました。その時久しぶりに先輩後輩や学生諸君の潮気たっぷりの顔に接して以来、そろそろ小生自身が、学生時代にお世話になった恩返しをする番だと感じておりました。昨年、前任の白石氏から事務局長を引継ぎ、一年間見よう見まねで事務方を務めてきたところ、土肥理事長はじめ理事の皆さんから、「君やれや。」といつのまにか理事長に推されることになりました。任期を一年残しての理事長の辞意表明は異例でもあり、小生も固辞しましたが、諸先輩後輩の暖かいご声援をいただくうちに、小生のような者でも一生懸命やれば、なんとか少しは恩返しができるかもしれないと思えるようになりました。とりえとていえば、とにかく前理事長より20年若いということだけであり、これを強味として、早稲田の伝統に若手を中心とした新しい力を融合し、トータルのパワーを盛上げるきっかけづくりができればと思っております。歴代の理事長の方々のように、学生時代から今日に到るまで際立つ実績をもつわけでもなく、まして一介の会社員という状況の中で、どれだけできるかは小生自身にもわかりませんが、「新しい時代にふさわしい、総ての

クラブ員による、総てのクラブ員のための早稲田ヨットクラブ」をめざしていきたいと念じております。去る3月のクラブ総会には、小澤会長はじめ昭和14年卒の山田直之助先輩もはるばる滋賀県大津市からご出席下さった一方、平成年代の若いOBの参加も多数あり、老壮青の揃う賑やかなパーティとなりました。OB会としての活動上からだけでなく、学生への支援を行う上からも、こうしたOB諸氏の幅広いご協力、交流があって初めて早稲田の伝統の力と進取の精神が発揮されるものと思ひます。大学ヨット部も、近江先生を新部長に、また鈴木氏を新監督に迎え、若手コーチ陣の基に新たな出発を始めたところです。どうか新しい学生チームと新しいクラブ体制に対し、クラブ員の皆様のこれまで以上の熱いご支持とご支援を賜りますよう、深くお願い申し上げます。なお、末筆乍ら、永らくヨット部長を務めていただきました矢頭先生、ならびに土肥前理事長、武村前監督には心よりお礼申し上げます。



ヨット部長就任に際して

近江幸治

43年間の長きに亘ってヨット部長を務めてこられた矢頭敏也教授が定年で退職された後任として、この4月よりヨット部長に就任いたしました。すでに、3月6日のヨット部壮行会、3月15日の早稲田ヨットクラブ総会に出席させていただき、また、3月31日には「げっこう」に乗艇させていただきました。

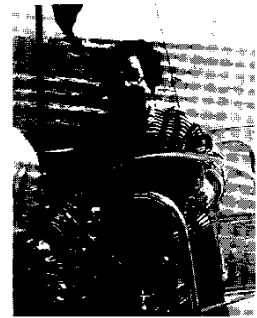
ヨットは金のかかるスポーツですが、感心させられたのは、OB会である早稲田ヨットクラブが大変しっかりしており、総会での小澤信二郎会長やはかのメンバーのご発言に現れているように、惜しみなく学生ヨット部を支援していることでした。このような暖かいOB会が存在している限り、ヨット部の大いなる活動の前提条件は揃っているわけです。

早稲田大学ヨット部は大変伝統があり、学生ヨット部でも草分け的存在であります。しかし、日本の大学の大衆化に伴う環境の変化は、大学の体育会系スポーツにも変化をもたらしています。それは、サークルに入っても体育会には入らないという現象です。わがヨット部の部員が少ないのもその現れでしょう。

かつてのように、全日本優勝という目標の第一歩は、部員の拡充から始めなければならないと考えます。この点は、石井講師、鈴木監督と連携して考えていきたいと思えます。

ところで、「げっこう」に乗せていただいた際に、あの幻の「稲龍」を見てきました。「稲龍」の歴史や置かれている状況が若干ながらわかりました。今後、種々の問題を考えていかなければなりません、とりあえず、ヨット部には、戦績での上位入賞という実績を作ってもらわねばなりません。

さて、先日の「げっこう」乗艇は、天候にも恵まれ、大変気持ちのよいものでした。寄港した三崎での食事も忘れられません。ご尽力いただいた米田氏、斎藤氏をはじめ、8名の皆様に心からお礼申し上げます。



ヨット部監督就任にあたり

鈴木光宏（昭63）

この度、伝統ある早稲田大学ヨット部の監督に就任することになりました。ヨット部を卒業してまだ8年しかたっていない若輩ではございますがよろしくお願ひ致します。

昨今の大学ヨット界は、日大、同志社大、福岡大の3校が抜きんできた実力を持って優勝争いを行い我が早稲田大学ヨット部はその後塵を拝する結果となって、長い間優勝の二文字から遠ざかっております。特別選抜により全国から優秀な経験者を集めたり、毎年新艇を購入したりと努力をしておりますがその程度はトップレベルの大学ではいまや常識となりプラスアルファを求められるのが現状であります。また、学生気質の変化から体育会という組織を敬遠し、なかなか部員が集まらないというのも各校共通した悩みようです。

こうした大学ヨット部を取り巻く環境の変化をうけて我々OBは何をすべきなのでしょう。今回私が監督させていただくにあたり、若手のOB諸君に合宿所にきていっしょに指導にあたる協力を約束していただきました。

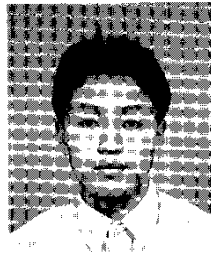
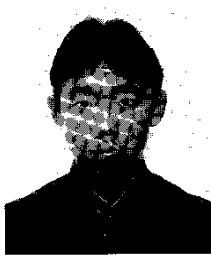
早稲田大学卒ゆえ社会にでてからも企業の戦力の中核となり、日夜多忙を極め、学生の面倒どころではないの

が実情、レースがあっても応援に行っていない、そうした方々が増えてしまいました。

私自身、同じ身の上許される時間は限られております。しかし我々には、かつて我々が諸先輩にいただいたことをまた現在の学生にしてやる義務があり、早稲田大学の伝統を守る責任があります。そうした思いから皆の限られた時間を提供しあい、共同で学生の指導にあたらうというのが私の監督就任の趣旨でもあるのです。私も辞令一つですぐにでも動かなければならないサラリーマンであり、いつまでお手伝いできるかわかりません。しかしそうした同じ環境のOBが主流になった今、長期的な視野にたって共同支援体制の確立を目指す必要があります。集まり参じて人は変われど、仰ぐは同じき早稲田大学ヨット部の勝利なのです。ですから、ヨット部から疎遠になってしまったとお感じになっている方もどうか合宿所にきて学生の声を聞き将来のヨット部について考えていただきたいのです。

私を始め若いスタッフがどこまでできるかわかりませんが、諸先輩の築きあげられた名誉を汚さぬよう精一杯がんばりますので、御声援よろしく御願ひ致します。

卒業／新OBからご挨拶



上段左から、石橋 頤、
中島 恵、三浦嘉之、
鎌田隆宏
下段左から、吉峰秀樹、
村山 崇、山岸大介、
東 初枝の新OB諸氏

石橋 頤 優勝しかないと言いつつ、期待もされながら不本意な成績に終わってしまった一年であった。一番になる技術はもちろん、精神力も相当なレベルにあったと思う。しかし、強い意思を持続維持できないから、技術がより高いレベルに上がらないのである。メンタルな部分は試合中だけに発揮されるものではない。常日頃からの生活・練習・合宿時の精神の持ちようがレースにできるものだと思う。“勝ちたい”という気持ちを強く維持することが練習による上達をもたらすと思う。そう思う気持ちをどう行動に移すかが一番重要であると思う。後輩諸君は、4年間で勝つために、“私はこれだけの行動を起こした”と自信を持って人に言えるようにこれからの全生活を過ごして欲しい。高校時代の恩師にいわれた言葉、“チームに誇りにされるようになれ”という事を今後も心に持ち続けたい。OBの皆様方、大変お世話になりました。ありがとうございました。<TOTOに決定>

中島 恵 監督さん、OBの皆さん。4年間ありがとうございました。唯一の心残りはインカレに優勝できなかった事です。後輩諸君は現役中にその喜びを味わえるよう頑張ってください。<研究留年>

三浦嘉之 社会人になってもヨット部に何らかの形で関わりを持ちたいと思います。OB会と連絡を密にします。<日本生命に決定>

鎌田隆宏 私は一般クルーで、4年になって始めて試合に出場したにもかかわらず自艇を前に走らせることができました。その理由は次のとおりです。関東470、国体など学生だけでないレースに出る機会をえた事。自分が井の中の蛙であることを知った事。高いレベルの試合で自艇のレベルを確認して自信を持つことができた事。

この4年間、自分たちがどのレベルにあるかを知らない内に関東・全日本インカレを終えてしまったのではないだろうかと思っています。現に私自身クルーリーダーという位置にいながら自艇の確認はできて他2艇と合わせての3艇の470チームの位置を確認するレベルに至らずシーズンを終え、大変悔しい思いです。もし私にもう

1年与えて貰えるならば、悔しい思いを頑張りに変え、昨年とは違う1年を過ごす自信はあるのです。今後、早稲田が常に3強に入るためには、出来るだけ身銭を切っても外の世界に出て、悔しい思いをしたり自分たちのレベルを一刻も早く知る必要があると思う。4年間私たちをサポートしていただいた数多くの先輩の皆様、本当にありがとうございました。<NHKに決定>

吉峰秀樹 現役の諸君！君達のいる場所と時間は素晴らしいものです。精一杯、一生懸命過ごしてください。人科諸君！胸頑張ってください。期待しています。<高松市役所に決定>

村山 崇 4年間、早稲田ヨット部で生活して多くのことを学ばせていただきました。この経験を生かして何事にも全力で取り組むつもりです。<住友商事に決定>

山岸大介 ヨット部にいてすばらしかったのは、打ち込んでいただけたこと、そこでの問題が自分にとっての一大事と思えるため、「真剣に考える機会が多く、またそれを共通の関心事として話し合える仲間がいたこと」だと思います。終わってみて、実際は思うようにはいかない事もありましたが、その時々で後悔のないように努力し考えてゆけば、自分にとってプラスになると思います。現役の人達、頑張ってください。4年間支えてくださったOBの皆様、心から感謝致します。ありがとうございました。<研究留年>

東 初枝 あつという間の4年間でしたが、ヨット部の体験が最も思い出深く今後の糧になると思います。多くの良きOB、部員、マネージャーに恵まれ、この部に所属していたことを誇りに思います。この後もOGとして変わらず応援して参ります。<海外経済協力基金に決定>

……壮年会での挨拶を聞いていて、心打たれるものがあった。みんなに文章にしてもらったら、ちょっと紋切り型になったように思うが、運動部にいた値打ちを評価しているところ各OBの共感を得ると思い特集した。

(編集者)

'95年度ご寄付 ありがとうございました。

昨年(平成7年)は、合宿所が広くなり補修整備がされました。新築部分是小島様に全部お世話になっております。従来の部分も補修しましたが、これらは大学からの出費とOBの皆さんからのご寄付によって完備されました。

通常、合宿では学生たちは全神経をヨットに集中しております。熱意溢れるご協力に厚く御礼申し上げます。96年度の新メンバーは元気に全日本の制覇に向けて訓練を重ねています。

ご寄付は対日標の約85%で下記の皆様からでした。ありがとうございました。カッコ内は万円です。

S14新名(2)、増井(3)、S15永元(4)、長匠(3)、S16堀(3)、堀江(3)、山下(1)、S18田窪(3)、S20坪田(2)、S21野木(1)、林(3)、S22清水(30)、木村(3)、S23加藤(3)、林(2)、S25伊井(5)、S26漆原(3)、S26渡辺(3)、S28河村(3)、S28石井(5)、S29米田秀(3)、石井(3)、米田晴(3)、安藤(3)、位田(5)、S30是枝(3)、岩本(6.5)千葉(3)、松本(2)、遊佐(4)、浜田(20)、舟岡(5)、日色(3)、S32武村(3)、S33加藤(3)、原田(3)、S36土肥(5)、S37伊藤秀(3)、石田(3)、S38木村(3)、S40大(1)、小嶋(5)、斎藤(1)、松島(2)S41長沢(3)江上(3)、S42石合(3)、

S45北嶋(3)、S46福島(3)、S47町田(5)、S48杉井(3)、平戸(3)、S49高松(3)、S50藤井(3)、恒川(3)、S53野口(3)、渡辺(2)、大原(2)、S54小川(3)、S56風間(3)、橋(3)、地曳(3)、戸枝(3)、香田(3)、S57小池(3)、長瀬(3)、石渡(3)、S58鎌田(3)、黒田(3)、森田(3)、渡辺(1)、S59小野(3)、市井(3)、坂東(3)、松本(3)、三好(3)、S60梅原(3)、S62宮沢(3)、岩田(3)、S63石井(3)、大杉(3)、神沢(3)、鈴木(3)、羽田(3)、渡辺(3)、H1川原(3)、H2清水(3)、矢口(3)、天野(3)、首藤(3)、田沢(3)、小川(3)、高橋(3)、掘米(3)、H3諏訪(3)、野原(3)、藤原(3)、田中(3)、槐島(3)、鈴木(3)、市川(3)、大浜(3)、米(3)、H4川島(3)、児玉(3)、石田(3)、大辻(3)、羽田(3)、原(3)、福沢(3)、星野(3)、三村(3)、柳川(3)、H5石井(3)、阿部(3)、今井(3)、星野(3)、高野瀬(3)、東野(3)、磯山・田口(1)、H6島山(3)、永田(3)、岸井(3)

合計：124人、寄付金：4,235,000
*** **

<ロッカー(30万円)寄付>

S31杉山、S33加藤、S37石田、S38木村、H2清水の5名
再計 125人 ***皆様に厚くお礼申し上げます。
以上



新大型艇『稲龍2世』 運営母体設立について

稲龍が老朽化して、新しいフネの購入の検討が始まっております。

何人かのOBの方々からご意見を聞いてきましたが(1)目標を何におくのか。(2)運営をどうするのか、が最も重要という指摘が多くありました。小沢会長の70フィート艇での太平洋航海構想、外洋航海部設立構想もあります。

早稲田大学のグローバル・ユニバーシティー思想(グローバルな視点・ローカルな魂と行動力・重視)もあります。この時代にヨットの世界も新しい目標とやり方が必要です。

折から私達は、「稲龍2世」の問題に直面することになりました。

「まず、人的受け皿作りが大切」と訴える諸兄のご意見を集約し、将来の青少年海洋教育の場を整えるための基盤を作りましょう。仮称「早龍会」の設立準備に入ります。そして新しい「稲龍2世」は次の事業を行うことになるでしょう。

- 1) 体育実技教育；今の学生はクルザーへの関心興味が高い。きちんとした基礎教育を行いたい。
- 2) 女子部員の教育；早稲田は今や日本最大の女子大学

です。本年の入学生1万人中の2700人が女子、彼女らの期待に応える。ヨット部OGの声も参考にしたい。

- 3) 大学職員対象のマリンレジャー指導；(過去に何度か実施し、好評だった)
 - 4) 地方稲門会との交流；昭和48年の稲龍の日本一周航海での実績がある。120日の航海で各地の稲門会で交流があった。今や日本各地のマリーナに有力OBもいる。稲門会のない県はない。各地のブルーウォーター派との交流も。
 - 5) 国際交流の場として；数年前、ケンブリッジ・ヨットチームが来訪した時は土肥先輩の“だぼはぜ”に乗って交流した。イギリス人が太平洋に憧れているのが非常に興味深かった。今大学に世界各国から学生が来ている。彼等に日本の海を知らせ、またいつの日か彼らの海を尋ねよう。
 - 6) 卒業ヨット部員クルージング；是非毎年経験して欲しい。
- 早龍会の趣旨に賛同の方、ご連絡ください(事務局まで)

本96年度 募金計画について

昨年度の300万円日標にたいして15%未達であったのと、今年度事業が計画調整中でありますので、5～6月理事会で方針を決めなければいけません。人事大幅に変わりましたので理事会も活をいれて行かねばなりません。多額のご寄付をいただく皆さんにご納得いただける運営をしようとする議論も尽くします。出席いただけない理事の方は、交替していただく事も話題にのっております。

この編集作業中、葉山ではインカレがおこなわれています。優勝に向けて学生諸君は活躍しています。何とか支援したいとおもいます。一方、OBの皆さんに如何に報いるかも考えたいと思います。

レスキュー、琵琶湖インカレ遠征費、稲龍、……と問題は沢山あります。学生もアルバイトで頑張ることになっています。

近日中に別途、本年度の募金をお願いすることになりますが宜しくご協力くださいますようお願い申し上げます。

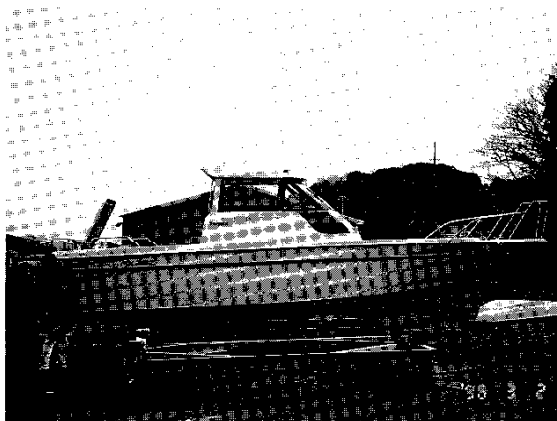


レスキュー新艇 進水と今後の対策

皆さんご承知の通りインターカレッジでは、「レスキューに関する規定」があり、参加各校は自ら“万全な安全体制”を持たねばなりません。本年の関東インカレ参加校は49大学です。安全なレース運営のため常に自己責任で救助体制を保持しつつ参加しています。

昨シーズン末、“紺碧6世”が不調になり買い替えが必要になりました。監督・コーチ団による選定の結果“ヤマハ26”を購入致しました。春のインカレから活発に利用しております。費用については、急拠若手OB中心に募金を開始致しました。新艇価格495万円、旧艇下取り条件、船台付き。

過去20年の買い替え時の寄付者は、合宿所に掲示してあり周知のとおりです。常に購入時の前1～7年のOB、



プラス有志が協賛しました。安全なヨット部生活を送ったことへの感謝の形で寄付したものです。ただ、この募金について、もっと広く参加してもらいたいとの意見もあります。

レスキュー問題は、学生ヨットの抱える人問題であり避けて通れないのです。また常に緊急性がありました。わがOB会、早稲田ヨットクラブの理事会として将来の対策を計画的に構築せねばなりません。皆さんの協議で、ヨット部100年の計のため一つの方法を見付けたいと思います。

なお、レスキュー第1号は、ローンスター3世で進水は昭和49年ですが、昭和57年まで使いました。8年間使いましたが修理代が高く付き、不経済。旧艇処分の困難性も配慮すると5年あたりでの買い替え（下取り条件）がよいという経験則が得られています。

現場では効率的な練習指導、レース時安全監視活動など、有効に使っております。ご理解をお願い致します。



現役ヨット部 '95年成績

関東インカレでは、60校中常に上位にいるが春・秋ともに3位に止まった。

秋は、日大、関東、早稲田、法政、中央、慶応の順。

全日本は、葉山・江ノ島間の沖合で11月初め絶好の風で好レースが展開された。

早稲田は470で活躍したが、スナイプは不本意な予選落ち。今年も日・同・福の3強を捕らえられなかった。全日本の順位以下のとおり。

(470) 日大、福岡、同志社、京産大、早稲田、京大 (スナイプ) 同志社、日大、福岡、関東学院、関西学院、立命館

なお、小沢会長は全日本学連会長として連日海上でにらみを利かせておられた。



速報 早慶戦圧勝!!

第56回・早慶ヨット定期戦は6月1～2日、絶好のコンディション（1日目5～7m、2日目5～9m）の相模湾・三戸浜沖で470、スナイプ両クラス各4艇づつで挙行。早稲田が両クラスを制し、大勝した。

関東インカレは、5月始め葉山沖で挙行されたが、スナイプ4位、470・6位、総合5位だった。レース期間は強風・無風などで、決勝レースは1日2レースだけしかできなかった。なお、両クラスの順位以下のとおり。

470級：日、関、法、慶、中、早
スナイプ級：関、中、慶、早、日、成

ウラジオストック 開港100年記念クルーズ

——鈴木 (S30) 坂爪 (S55) が参加 ——



左、鈴木 (賢) OB、右、坂爪OB

95年6月27日、新潟西港沖を出帆したロシアからの13艇と日本艇4艇は、460海里的日本海を4日でクルージングしました。2人が乗ったのは寺泊マリーナ所属、新潟NORC会長艇「HITOGO」あとは「銀河」「松風」鳥取からの「沖の太夫」。

日本海の夜空は満天の星。感激する坂爪。7人のクルー協力の4昼夜は思い出深いものでした。アムール湾入口は濃霧でした。島々の間の細い海峡をGPSで位置確認しつつ緊張の連続。初めてのロシアの陸地を視認できた嬉しさ。アムール湾に入ると霧も晴れ、ウラジオストック市のビル群を見ながら4日ぶりの入港です。7月1日、ここウラジオストックにはアムール湾に面して4つのヨットハーバーがあり、多くのクルーザーが活動しています。夜が9時、10時でも薄明るい為夕方からセーリングを楽しんでいます。我々の入港は18:30でしたが、そのころ出港して行くセーリングボートがありました。

アムール湾内の親善レースにはナホトカ・ヨットクラブからの参加もあり、28艇。湾内21海里的の三角コースで、冷たい雨と霧の中の、GPSとコンパス頼りの約3時間でした。6位フィニッシュ、修正9位。楽しいレースでした。

夜はウラジオのハーバーを見下ろす会場でパーティー。ロシア極東ヨット連盟会長・シゴレフ氏他多数参加で楽しく盛り上がりました。お酒、高級なウオッカがトロリと大変おいしい。

ウラジオストックはちょうど開港100年記念ということで飾り付けも多く、民族舞踊などいろいろな催しが行われお祭り気分が満ちていました。

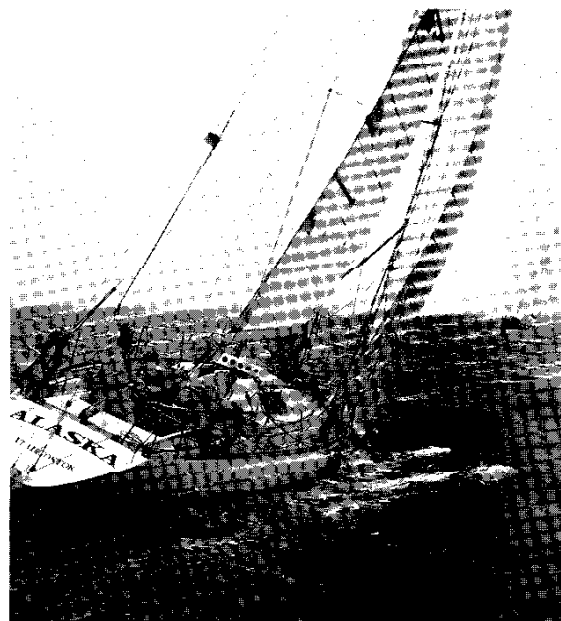
……と書くと、万事うまくいったようだが、いろいろ問題もあった。

入港が18:30で入関手続きが出来ず、岸壁に携留しながら上陸できず翌日まで。さらに湾内のため、ヨットのトイレが使えないという苦しい一夜だった。ホテルのシャワーが湯がでない、裸になっていた1人は震え上がった。夜になってでたお湯は赤錆色。

タクシーを拾うのが難しい。わるい運ちゃんにあうとぼられる。運ちゃんを選別すると凄まれる。運ちゃん同士が喧嘩する。町の中では拾えない。

若い女性はすなりとして色白、ぽっちりした水色の目をした美人が多いのに、年配の女性は皆FAT.??

世界一周中のニュージーランドのヨット「SWAN SONG」がいてそのベーカー夫妻の話では昨年ではなかったが、今年は町で砂糖が買えるようになったと言う。経済活動はまだまだ大変な感じですが。必需品はなんとか手に入る段階のようでした。鈴木、坂爪、楽しくクルージングに、レースに、また異国の体験と国際親善、中身の濃い1週間でした。



雨のウラジオストック沖

A級ディングー全日本 惜しくも優勝を逸する

95・7月30日、琵琶湖・唐崎で盛大にレース・6回戦が行われた。

本年は23チームが参加。わが早稲田OB艇は快走！3レースにトップを引いたが、惜しくも2位に終わった。
早稲田OB 1、1、5、14、4、1 2位
成蹊 OD 3、6、4、1、1、2 優勝

参加は、林、石井、千葉、舟岡、加藤、大(夫婦)、武藤、渡辺、大原



太平洋稲門会95／伊東

7月31日、11・00油壺沖で観艦式。司令長官・西原元総長はドイツからこの日に合わせて帰国し参加。

“だぼはぜ・スーパー6” 並木、土肥、川原、畠山、野原ほか

“げっこう” 千葉、斎藤、出、小島、山中、清水、米田

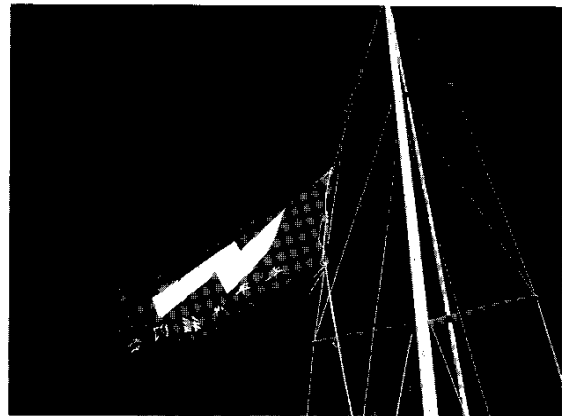
“モーニング・タイド” 大矢木 ほか(西原、岡本、矢谷各先生)

“WINDY”

“フアントム” 安藤ほか

95年夏は、暑さと地震で記憶に残る夏だった。相模湾を半日快走し、夕方に伊東に集結したら何か騒がしい。地震の影響で津波警報。あれ！ 消防車も走っているぞ。山の上で大火事だ。あとで聞くと、油を自宅に撒いて火をつけた奴がいたという。その位暑い夏だった。大発生のはずも負けるヨ。

岸壁での伊東稲門会さんとのパーティーの頃、やっと涼風が感じられた。



昔とったキネヅカ(舵棒)募集!!

A級ディングー日本選手権、5分前！
夏近し、八景島で合宿しませんか。A1、A21でレースに参加してください。

7月20日(土) 16・00 八景荘に集合
18・00 レセプション 日大艇庫前

7月21日(日) 08・00 開会式
10・00 第1レース、スタート

6～7レースの予定。全員テイラーもって、参加できます。

合宿場所；横浜市・金沢区州崎町20-18 「八景荘」
TEL:045-781-8458 2食つき、9000円
JR新杉田、または京浜急行・金沢八景からのシーサイド・ラインで「野島公園」下車、5分。
パーティー参加；記念品・レース参加者・

当日の弁当代込み、9000円

当日参加の方； 3000円

宿泊希望者は、加藤文生まで、TEL；03-3442-6231、

FAX6233

……6月末までに申し込み……

96年OBレース予定

クラブの公式行事として、下記レースが決定しています。

各年度OBの同期会として参加することも、お勧めします。

<10大学OB戦> 諏訪湖 6月8～9日

毎年、諏訪湖です。スナイプ2艇、シーホッパー1艇、3回戦

6月8日(土) 19時より前夜祭

9日(日) 9時、第1レーススタート 解散予定15時

**幹事 浜田裕 FAX; 0426 44 8261

<A級 デインギー全日本> 八景島 7月20～21日

7月20日(土) 前夜祭

21日(日) レース

**幹事 石井章夫 TEL; 0422-54-3808

千葉栄作 TEL; 045-251-3403



八景島での練習風景とA1号艇と21号艇

<4大学OB戦> 新西宮YH沖 9月14～15日

9月14日(土) 前夜祭

15日(日) レース

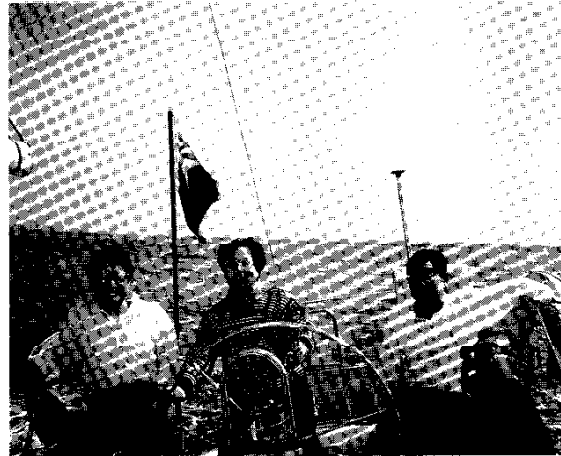
今年の幹事校は関西学院、ドラゴンとスナイプを準備。関西地区OBの皆さん、連絡とりあって参加のご準備願います。

**幹事 宮本能久 TEL; 06-943-8288

濱田全紀 TEL; 06-854-0544

本件; 事務局でも受け付けます。

米田 TEL; 045-845-9373



近江新ヨット部長<げっこう>に初乗り
左から、大OB、近江部長、松島OB、金沢OB

今年度事務局メンバー

理事長 小川寛樹 (S54) 048-881-6775

事務局長 米田晴二 (S29) 045-845-9373

会計 梅原浩一郎 (S60) 0471-25-2726

この編成で勤めます。ご協力お願い致します。

理事会は、従来通り「毎月第3木曜日/永楽倶楽部6・30」です。

事務局より

今回は大幅な人事の入れ替えがありました。トップ記事に“若返り……”と出したのにS29の事務局長では羊頭狗肉だが、若返って若い皆さんをお手伝います。過去のマンネリにならないよう、現在のヨット部の現状を良く理解し、現場とOBの皆様の接点になる積もりです。熱意ある皆様の動きを一番大事にします。早稲田が今のままで良いのか、今の状況から更に上を目指すのにはどうしたら良いのか。理事会以外の場でもしっかり相談したい。またOBの皆さんの海への情熱・郷愁にお応えすることも考えたい。いろいろな意見をお寄せください。

事務局では若い方に補佐をお願いする積もりです。こういうクラブ活動は、熱意があって時間的にできる人がやることで従来も続いてきたのです。熱意が無くなったことなど、64年の歴史の中で一度も無いのです。早稲田を強くするために!格調のあるクラブにするため!あなたの積極のご参加を期待いたします。64才の事務局長より。